

特集

ぴーえるサロンへようこそ

がんの患者さまやご家族の交流の場

がん看護専門看護師・認定心理士
師長 山田 忍



杉多 真一 さん

私が初めてサロンへ参加したのは、去年の6月。病気の宣告を受けてすぐの頃でした。病気や日々の治療の不安を抱え毎日を過ごしていた私に、看護師長さんからサロンへの参加を勧めていただきました。サロンへ参加してみると、そこでは大変な治療や体験をされている方がたくさんいらして、私も頑張らねばと勇気づけられました。その中で、自分と同じ移植治療をされた方がいて、その方の体験や入院生活の不安、病との向き合い方、いろんな話を聞かせていただき、それまで不安だったことが前向きに考えられるようになりました。

また、闘病仲間ができたことも大きかったです。治療中は、辛く大変なことも多かったのですが、闘病仲間ができたことでリハビリにも積極的に取り組むようになりました。リハビリでは、体力維持と強化を中心に私に

ぴーえるサロンのご紹介

当院は、2012年にがん診療拠点病院として指定されました。その役割の一つにがん患者の皆さまが交流できる場を提供するということがあります。交流の場を通じ、患者さまとご家族が日常生活の不安や困りごとを語り合い、情報交換を行い、互いがサポートし合える場所となっています。

サロンも発足後3年目を迎え、毎回楽しみに来ていますと参加して下さる方も定着してまいりました。参加された後、「あー楽しかった。また来ます。」と笑顔で帰られる姿が私たちの支えにもなっています。徐々に患者さま主体のサロンとなり、互いがサポーターとして生き生きと語り合われております。

そんな中で、「サポーターとして何かできることはないだろうか。」と折り紙教室の開催を企画し、毎回サロンの運営に貢献してくださっている杉多さんご夫妻がおられます。

今回、杉多さんにサロンに参加しての感想など聞かせていただきました。

合ったプログラムを考えてくださり、薬の副作用で外へ出られないときはベッドの上でできるストレッチや軽い運動を教えてくださいました。長い入院生活の中で、体を動かすことがどれだけ大切か身をもって知ったのは移植の時でした。この時は、治療中で一番辛くしんどい時でしたが、自らの足で歩きトイレに行けたこと、何より寝たきり状態にならずにすんだこと、またその後の回復が早かったことです。日々、頑張ったりリハビリの成果だと思えます。

今は退院し、自宅療養の中で毎月のサロンに参加できるまでになりました。入院中、仲間に触発され折り紙をしていたのですが、サロンでも指先や手のリハビリ、入院中のストレッチ等が解消されればと思い、折り花や花かごを作ったりしています。またサロンでは、不安や悩み、体験を話したり聞いたり、マッサージを受けることや日常生活での不安などを相談できる相談員の方もいます。大きな病気になるかと悩みや不安を抱え込みがちになりますが、誰かに話すことや人と接することで何か解決の糸口が見つかるかもしれません。参加することで「元気をもらって帰るんだ」とおっしゃる方もいて、私自身もその一人です。サロンに参加して、沢山の方々に助けていただきました。今度は自分がそうなればと思います。

ぴーえるサロン

- 日時 毎月第2木曜日 14:00~16:00 ※変更の場合あり
- 場所 セミナー室(3階)
- 内容 がん克服の体験談や医療従事者による専門的なお話
不安やお悩みを共有するフリートーク
折り花、アロママッサージ、ネイル体験 など
開催月により様々なイベントを実施しています。
- お問い合わせ 地域医療連携室 0721-24-6100(直通)



杉多さん作製のウェルカムボード



折り花を使って花かごを作製しています



右から杉多さんご夫妻・春菜さん・山田